

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	単位	本年度の実績値	単位	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
②学校と地域の課題	その他	地域ボランティアの活躍する場が少なく、学校との連携が希薄となっており、特別授業などの実施に影響している。	・年間を通じて地域ボランティア等による文化交流を実施することで、参加児童の興味・意欲を高める。 ・放課後子ども教室の活動を通じて、地域ボランティア等の活動を紹介すること、学校と地域の課題解消の橋渡しを行う。	・地域ボランティア等を活用することで、学校との連携を強化し、学校の課題解決に寄与する。	学校の特別授業に地域ボランティア等を活用する件数	1	件	0	件	2 特別プログラムを実施する際、学校との連携を図り、職員等の関係者を招待し、活動内容の周知を図ったが、地域ボランティアの活用には至らなかった。次年度以降の学校教育活動につながるような活動を引き続き行っていく。
③学校と家庭の課題	家庭等における学習習慣の定着	学校以外で学習を行う習慣が定着せずに、問題解決に意欲的に接することができない児童が増えている。	・放課後子ども教室において、学習の時間を設定し、学習習慣の定着を図る。 ・他の参加者と切磋琢磨しながら、問題解決に向けたひらめきや発見を導き出せるよう、支援員を通じてサポートしていく。	学校以外で日常的に学習を行う児童が増える。	アンケート調査において、学校以外での学習時間が増加したと回答した児童の割合	30	%	62	%	4 活動の中で、習慣化された学習時間が、学習リズムに大きく影響しており、保護者及び参加児童アンケートにおいても、よい影響が出ていることが確認できた。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	放課後に子ども達が活動できる安心・安全な居場所が少ない。	・全小中学校で放課後子ども教室を週2回程度実施することで、子ども達の居場所を確保する。	子ども達が活動しやすい居場所を提供する。	放課後子ども教室参加者数(延べ人数)	1350	人	1376	人	4 感染症等で学校が休校になるなどの影響があり、延べ人数に大幅な伸びはなかったが、7教室中、6教室が定員以上の申込みとなるなど、参加児童数が昨年度より大幅に上回った。一方で、定員に達した場合は、待機となる教室もあるため、より多くの児童が参加できるよう、施設や支援員の確保が課題となっている。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	子ども同士がふれあえる環境が少ないために、学年を超えた交流がしにくく、遊びを通じた思いやりの心を育む時間が確保しにくい状況となっている。	・活動を通じて、他学年との交流を深める。	他学年との交流を通じて、思いやりの心を育み、交流を深めることによって、学校内外での行事等を円滑に実施することができる。	放課後子ども教室アンケート調査における満足度(友達と過ごせること・学年の違う友達と遊べること)	40	%	39	%	3 活動を通じて、異学年との交流を深められるきっかけづくりとなった。ただ、申込者数の増加や時間割の都合により、高学年と交流する機会が減少してしまっていた。
③学校と家庭の課題	読書習慣の定着・読書体験の充実	図書室・図書館などの利用者が減少し、子ども達が自ら読書を行う環境や本への愛着が持てず、家庭においても読書・読み聞かせの機会が少なくなっている。	・放課後子ども教室において、読み聞かせや読書の時間を設ける。	児童が本に触れ合う機会を増やし、さまざまな感情を育むきっかけ作りを増やす。	放課後子ども教室アンケート調査における満足度(読書・読み聞かせが楽しいと答えた人数)	20	%	86	%	4 ボランティアによる読み聞かせの実施により、ただ本を読むだけでなく、リズムにのった音読や迫力ある語り口など、文字や言葉にふれることに好奇心を持って接する姿が見られた。読み聞かせボランティア団体の確保や子ども達の興味を高める本の選定などを行っていく必要がある。

◆ EBPMのアウトカムの達成度(5段階評価) ◆

- 5 本年度の目標を大きく上回り、設定していた課題が解決した
- 4 本年度の目標を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた
- 3 本年度の目標を達成し、課題の改善が見られた
- 2 本年度の目標を下回り、取組の工夫・改善が求められる
- 1 本年度の目標を大きく下回り、取組の根本的な見直し求められる